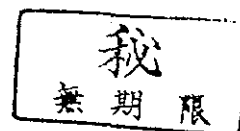


琉球大学学術リポジトリ

沖縄関係/日米協議委員会開催関係

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43728

議
長
×
天



沖繩に関する日米協議委員会
第16回会合
議長用メモ

昭和43年10月25日

(着 席)

(報道関係者は、あらかじめ所定の位置に入場、写真撮影の後退場。)

1. (開会及び議事日程採択)

「只今より、沖繩に関する協議委員会の第16回会合を開催いたします。」

(通 訳)

「まず、ジョンソン大使から米側出席者の御紹介があると承知しております。ジョンソン大使どうぞ。」

(通 訳)

(ここでジョンソン大使より、米側出席者紹介)

(通 訳)

「ジョンソン大使どうもありがとうございます」

した。私は、本委員会の議長として、また日本側を代表して、アンガー高等弁務官、パージャー公使、エリクソン参事官、クレーマー計画局長の参加を歓迎します。」

(通 訳)

「それでは、本日の議題についてお諮りいたします。お手許にお配りした議事日程に御異議ありませんか。」

(通 訳)

(米側より異議なき旨発言)

(通 訳)

「御異議がなければ、これにて議事を進めます。」

(通 訳)

2. (議題 / 琉球諸島高等弁務官に対する諮問
委員会の活動に関する高等弁務官の
報告)

「それでは、議題 / の高等弁務官に対する諮

問委員会の活動に関する報告に移ります。アン
ガー高等弁務官より御報告があると承知してお
ります。アンガー高等弁務官どうぞ。」

(通 訳)

(アンガー高等弁務官報告)

(通 訳)

「アンガー高等弁務官どうもありがとうございました。
いました。」

日本政府としても、諮問委員会が沖縄と日本本土
との一体化促進のために精力的、かつ、建設的
な活動を行なっていることに対し、深く満足し
ております。この機会に、日本側を代表して、
同委員会の活動に対して示されたアンガー高等
弁務官をはじめとする米琉当局者の御理解と御
協力に対し深甚なる感謝の意を表します。

諮問委員会が沖縄住民の民生福祉の向上のため
に真に有意義な役割りを果たすためには、単
に諮問委員会の場における3政府の協力のみな
らず、その勧告の実施のための3政府の協力が

必要であります。この機会に、日本側を代表して、日本政府としては、すでに合意された勧告及び今後合意されるべき勧告の実施についてできる限りの協力を行なうものであることを、あらためて表明いたしますとともに、高等弁務官をはじめとする米国政府当局者の一層の御理解と御協力をお願いいたします。」

(通 訳)

「ここで、ジョンソン大使より御発言があると承知しております。ジョンソン大使どうぞ。」

(通 訳)

(ジョンソン大使発言)

(通 訳)

「ジョンソン大使どうもありがとうございました。」

(通 訳)

3. (議題 3 昭和44会計年度日本政府対沖縄援助に関する米側提案草案主要項目説明)

「次に議題2の昭和44会計年度日本政府対
沖繩援助に関する米側提案草案主要項目につい
ての討議に移ります。ジョンソン大使より御発
言があると承知しております。ジョンソン大使
どうぞ。」

(通 訳)

(ジョンソン大使説明)

(通 訳)

「ジョンソン大使 どもありがとうございます
した。」

ここで、田中総務長官より御発言があると承
知しております。田中総務長官どうぞ。」

(通 訳)

(総務長官発言)

(通 訳)

「田中総務長官 どもありがとうございます
た。」

(通 訳)

4. (議題 3 共同新聞発表についての合意)

「最後に、議題 3 の新聞発表ぶりについてお諮りいたします。事務当局で用意した発表文案をお手許にお配りしてありますが、これを報道関係者に配布し、それによつて説明を行なうこととしたいと考えますが、御異議ありませんか。」

(通 訳)

(米側より、上記に同意する旨及び高等弁務官の報告全文を会議後公表したく、日本側の同意をえたい旨発言。)

(通 訳)

「日本側としても、諮問委員会の活動に関する高等弁務官の報告を会議後公表することに異存ありません。

では、新聞発表については、只今申し上げたとおりにとり違ふことに決定いたします。」

(通 訳)

5. 閉 会

「本日の委員会は、皆様の御協力をもつてきわめて円滑に議事を進めることができました。皆様の御協力を感謝いたします。第16回協議委員会はこれをもつて閉会いたします。ありがとうございました。」

(通 訳)

秘
無期限

沖縄に関する日米協議委員会
第16回会合

議事日程 (案)

昭和43年10月25日

議事日程の採択

1. 琉球諸島高等弁務官に対する諮問委員会の活動に関する高等弁務官報告
2. 昭和44会計年度日本政府対沖縄援助に関する米側提案草案主要項目説明
3. 共同新聞発表についての合意

秘
無 期 限

The 16th Meeting of
the Japan-United States Consultative Committee
on Okinawa

October 25, 1968

Draft Agenda

Adoption of Agenda

1. High Commissioner's report on the activities of the Advisory Committee to the High Commissioner of the Ryukyu Islands.
2. Explanation of the principal items of the draft United States proposal, regarding the Japanese Government assistance to Okinawa in JFY 1969.
3. Agreement on Joint Press Release.



沖縄に関する日米協議委員会
第16回会合に関する共同新
聞発表 (案)

昭和43年10月25日

1. 沖縄に関する日米協議委員会第16回会合は、10月25日午前11時30分から、日本側三木外務大臣、田中総務長官、米国側ジョンソン駐日米国大使、アンガー高等弁務官出席の下に、外務省で開かれた。
2. アンガー高等弁務官より、諮問委員会の活動に関する報告を行なった。高等弁務官はその報告の中で、日米琉3政府代表並びにその有能なスタッフの積極的努力により、すでに27件のほるきわめて有益な勧告をうけたことに満足している旨述べ、日本政府の諮問委員会に対する積極的協力に感謝の意を表した。

これに対し三木外務大臣より、日本政府としても、諮問委員会の活動に十分満足している旨述べるとともに、その活動に対して示されたアンガー高等弁務官をはじめとする米琉当局者の理解と協力を多としている旨述べた。

ジョンソン大使より、米国政府としても、諮問委員会の活動を通じて、昨年の佐藤・ジョンソン会談において合意された重要な政策目標の一つである沖縄と本土との一体化の強力な促進がはかられていることを喜んでいと述べた。

3. 昭和44会計年度日本政府対沖縄援助に関して、米側より、目下検討中の米側提案の主要項目を説明した。この説明の中で、米側は、高等弁務官に対する諮問委員会より行なわれた医療保険、生活保護及び各種年金制度の拡充に関する勧告に特に言及し、日本政府が来年度以降の援助において、その実現のために好意的配慮を払ってくれるより要望した。

これに対し日本側より、日本政府としても、諮問委員会の成果を基礎とし、また、日本政府一体化調査団の調査結果等を考慮しつつ、今後一体化施策を推進する考えであり、その意味において米側の意向を十分斟酌し、かつ、日本の財政事情を勘案して、来年度の沖縄向援助を策定したいと述べた。

日本側は、沖縄住民の生活の安定と向上を確保するために、来年度の沖縄向援助計画において、保健及び社会福祉諸計画の支援のために、特に考慮を払う旨言明した。

秘
まで

Joint Press Release on the 16th Meeting
of the Consultative Committee on Okinawa
(Draft)

October 25, 1968

1. The Sixteenth Meeting of the Consultative Committee on Okinawa was held at the Ministry of Foreign Affairs at 11:30 on October 25, 1968. Foreign Minister Takeo Miki and Director-General Tatsuo Tanaka of the Prime Minister's Office represented the Japanese Government and Ambassador U. Alexis Johnson and General Unger, the High Commissioner of the Ryukyu Islands, represented the United States Government.
2. High Commissioner Unger reported to the Committee on the activities of the Advisory Committee. In his report, the High Commissioner stated with satisfaction that he had already received 27 highly useful recommendations, thanks to the strenuous efforts on the part of the representatives of the three Governments concerned and their able staff. He further expressed his appreciation of the positive cooperation which has been given the Committee by the Japanese Government.

Foreign Minister Miki stated that the Japanese Government is also well satisfied with the work of the Advisory Committee and that it highly appreciates the understanding and cooperation
extended

extended to the activities of the Advisory Committee by General Unger and the American and Ryukyuan authorities concerned.

Ambassador Johnson stated that the United States Government is pleased to see that the promotion of "Ittaika" between Okinawa and Japan proper, one of the important policy objectives agreed upon in last year's meeting between Prime Minister Sato and President Johnson, has been vigorously carried forward through the activities of the Advisory Committee.

3. With respect to the Japanese Government aid to Okinawa for the Japanese fiscal year 1969, the United States side gave an explanation of the principal items of the draft proposal which it now has under consideration. In the course of this explanation, the United States side referred particularly to the recommendations recently made by the Advisory Committee to the High Commissioner on the expansion and improvement of the medical insurance system, the daily life security program and pension programs, and requested that the Japanese Government give favorable consideration in its aid program for the next fiscal year and thereafter for the realization of these health and welfare programs.

In reply to these representations, the Japanese side stated that the Japanese Government intends to promote "Ittaika"

measures

measures henceforth on the basis of the work of the Advisory Committee and taking into consideration the findings of the Japanese Government "Ittaika" Survey Team and other available information, and that it would formulate its aid program for the next fiscal year, in the light of these considerations, taking into full account the views of the United States side and the financial situation of Japan.

The Japanese side affirmed that, in order to secure to the people of Okinawa a stable and improved livelihood, it will give particular consideration to support of the health and social welfare programs in its aid program for the next fiscal year.

沖縄に関する日米協議委員会
(第16回)出席者

昭和43年10月25日

日本側

三木	武夫	外務大臣
田中	龍夫	総理府総務長官
東郷	文彦	外務省アメリカ局長
山野	幸吉	総理府特別地域連絡局長
大河原	良雄	外務省アメリカ局外務参事官
加藤	泰守	総理府特別地域連絡局参事官
岸	良明	総理府特別地域連絡局援助業務課長
堂ノ脇	光朗	外務省アメリカ局北米課長代理

米側

U・アレクシス・ジョンソン	駐日大使
フェルディナンド・T・アングー	琉球諸島高等弁務官
ハーマン・バージャー	米国大使館公使
リチャード・A・エリクソン	米国大使館参事官
ジョシュア・クレイマー	琉球諸島米国民政府計画局長
ジェームズ・J・ウィッケル	米国大使館二等書記官

The 16th Meeting of the Consultative Committee
on Okinawa

October 25, 1968

Participants

Japanese Side

Hon. Takeo Miki	Minister for Foreign Affairs
Hon. Tatsuo Tanaka	Director-General, Prime Minister's Office
Mr. Fumihiko Togo	Director-General, American Affairs Bureau, Ministry of Foreign Affairs
Mr. Kokichi Yamano	Director, Special Areas Liaison Bureau, Prime Minister's Office
Mr. Yoshio Okawara	Assistant Director, American Affairs Bureau, Ministry of Foreign Affairs
Mr. Yasumori Kato	Counsellor, Special Areas Liaison Bureau, Prime Minister's Office
Mr. Yoshiaki Kishi	Head, Assistance Division, Special Areas Liaison Bureau, Prime Minister's Office
Mr. Mitsuro Donawaki	Acting Head, North America Division, American Affairs Bureau, Ministry of Foreign Affairs

U.S. Side

H.E. Mr. U. Alexis Johnson	Ambassador of the United States of America
Lt. Gen. Ferdinand T. Unger	High Commissioner of the Ryukyu Islands
Mr. Herman Barger	Minister for Economic and Commercial Affairs, Embassy of the United States of America
Mr. Richard A. Ericson, Jr.	Counsellor, Embassy of the United States of America
Mr. Joshua Kramer	Director, Comptroller Department, United States Civil Adminis- tration of the Ryukyu Islands
Mr. James J. Wickel	Second Secretary, Embassy of the United States of America

日米協議委員会第16回会合

座席配置

昭和43年10月25日
外務大臣接見室において

堂ノ脇北米課長代理 ○	
大河原外務参事官 ○	○ ウィッケル書記官 (James J. Wickel)
東郷アメリカ局長 ○	○ アンガー高等弁務官 (Ferdinand T. Unger)
三木外務大臣 ○	○ ジョンソン大使 (U. Alexis Johnson)
田中総務長官 ○	○ エリクソン参事官 (Richard A. Ericson)
山野特連局長 ○	○ バージャー公使 (Herman Barger)
加藤総理府参事官 ○	○ クレーマー民政府計画局長 (Joshua Kramer)
岸 援助業務課長 ○	